



アメリカは銃器と闘え！！

十一月一日、ロサンゼルス空港で男がライフルを発砲、一人が殺された。米国では銃器犯罪が絶えないし、警官も簡単に発砲する。

合衆国憲法は

米国憲法修正第二条には「規律ある民兵は、自由な国家の安全にとつて必要であるから、人民が武器を保有し、また携帯する権利は、これを侵してはならない」と規定。

これは、民兵を組織するための州の権利であつて個人に銃所持を認めたものではないとする説がある。これに対し、個人が武装する権利であるとする説もある。今の所、米最高裁は後者の説をとる。

膨大な武器市場

二〇〇六年 Small

Arms Survey が発表したレポート(註)に依ると、世界にあるピストルやライフル銃などの銃器の三分の一が米国に集中。米国民一人当たり約一丁の銃器がある。そして、毎年五百万丁の銃器が米国市場に出回っている。銃器が多いから銃器を使った犯罪が多発するのは当然。一般人が銃器を持っているから警官もすぐ発砲する。

銃器犯罪を無くすためには、銃器の所持を原則禁止し、刀狩りではないが「銃器狩り」をして銃器を一掃する必要があると思う。

他所の国に「テロとの戦い」を声高に迫る前に、アメリカ国内で「銃との闘い」をするべきでは無いか。

皆さんはどう思われますか？

(註) A Guide to the US Small Arms Market, Industry and Exports, 1998-2004

おしまはっこう 大島博光記念館

長野市松代町



大島博光記念館 検索 => <http://oshimahakkou.blog44.fc2.com/> に行き方など詳しい情報があります。

大島博光は松代出身の詩人、仏文学者。戦前、西條八十の下で詩誌「蠨人形」を編集。戦後「フランスの起床ラップ」など、アラゴンらのフランスのレジスタンス詩を紹介。

記念館は千曲川に近く、間に上信越道が通る。

記念館で柳沢さつき先生の講演を聞いた。詩誌「信州モンパルナス」は一九四〇年創刊。巻頭言は島崎藤村。大島博光は「詩と詩人について」を寄稿。自由な表現の為、編集長等が特高に検挙され廃刊。

記念館では詩人の集まり、夜にはコーラス、俳句、お琴、ハンゲル講座等。お庭でバラ祭りが行われたり、敷地内のレストラン「はなや」では「うたごえ喫茶」が開かれる。

近くには松代大本營の跡がある。

山下徹 あおぞら 検索 => <http://yms-tor.art.coocan.jp> 「美術館あおぞら」にバックナンバーが納めてあります。